

NPO 法人道普請人の夏期ケニア学生ボランティア参加への志望動機

創価大学 文学部人間学科 1 回生 長谷飛鳥

私が今回 NPO 法人道普請人の夏期ケニア学生ボランティアに参加を希望する理由は、活動内容全てに魅力を感じ、今回の活動を、将来の道を見つける第一歩にしたいと強く思ったからです。道直しという一つの目的に向かって現地の人々と協力すること、ホームステイを通して現地の暮らしに密着すること、私がアフリカを目指したきっかけでもある、アフリカの子どもたちに会いにゆくこと、そして、自分が一度も触れてこなかった自然という分野に飛び込むこと。これら全てを経験できると知り、私の胸は高鳴りました。

私がアフリカに興味を持つようになったのは高校 2 年生の時でした。国際理解という授業で見た、飢えに苦しむアフリカの子どもたちの映像に衝撃を受け、彼らを助けたい、私にできることがしたいという思いで、アフリカへの貢献の道を目指すようになりました。しかし、学べば学ぶほどに、アフリカの抱える問題の多さと大きさを知り、私がアフリカの問題を全て解決するのだ、という使命感と同時に、自分の力ではどうにもできないという無力感を感じるようになりました。そして、徐々にアフリカへ貢献するという思いに諦めを抱きはじめ、ついに自分の進むべき道が分からなくなってしまいました。

そんな迷いのなかで、今回のボランティアに応募するきっかけとなったのが、私の所属するパン・アフリカン友好会というクラブでの学びでした。アフリカの年である 1960 年に、創価大学の創立者が残された、「21 世紀はアフリカの世紀」という言葉をテーマに、アフリカが持つ「光の部分」に焦点を当てて活動するパン・アフリカン友好会。このクラブの姿勢は、私が今まで必死になっていた、アフリカの抱える「陰の部分」を学ぼうとする姿勢とは 180 度異なっていました。この視点にたてば、たとえ奴隷貿易や植民地支配という悲しい歴史を学んでも、必ず、アフリカの人々が失わなかった生きる希望を見出すことができました。

この新しい視点にたち、アフリカの人々が持つエネルギーや希望を強く感じ、実はこちらがアフリカから教わることばかりだと気付くようになってからは、「アフリカを助けてあげる」という思いから、「アフリカから学びたい」との思いへと変化してゆきました。それから私の、アフリカをもっと知りたい！アフリカに飛び込みたい！アフリカを全身で感じたい！という思いは日に日に募る一方です。ゆえに、今回の活動を通してアフリカの良い部分も悪い部分もどちらも学び、自身が進むべき道を見つける第一歩とする決意のもと、NPO 法人道普請人の夏期ケニア学生ボランティアへの参加を希望します。